

『笑顔』

Y9HR 吉本 有花

私は、中学生になってからある事を心がけるようになりました。
それは、笑顔でいることと何事もポジティブに考えることです。
小学生の頃は自分の表情や思考を意識したり、コントロールしたりするようなことはありませんでしたが、家族の存在が私を大きく変えてくれました。

表情は言葉以上に沢山の心情やメッセージを相手に伝え、思考は強いものだと本当に実現したりすることがあります。また豊かな表情は、人とコミュニケーションをとるうえでも大きな役割を果たしています。それゆえ自分をうまくコントロールすればするほど、自分の人間力を磨き上げることができると思います。

自分の力で、自分を変えたい！

と思えるようなきっかけを与えてくれたのは、今年二十歳を迎える、知的障害のある兄でした。

兄は出生時に産道でも膜下出血を起こし、産声を上げることはなく、息をしていないまま生まれてきました。

そのまま1分30秒が経過した時、やっと産声を上げましたが、大きな後遺症が残りました。しかし命をとりとめたことで母は光が見えたといえます。

その母がみた光は本物でした。

「一生歩くことができないかもしれない。」と言われていた兄ですが、車椅子で生活していたのはほんの8年で、今は普通に歩くことも走ることもできます。

しかしながら、言葉を話すことだけは全くできません。そのため意思疎通はものすごく難しいです。

頼みたいことがあっても言うことができない、調子が悪くても訴えることができない、嫌なことをされても反発することができない。

兄はそのストレスから、泣きながらものを投げてきたり、暴力を振るってきたりすることがあります。私たちにははかりしれない、大きなストレスを抱えたうえでの行動だとわかっているけど、やはり幼少期は兄と一緒に暮らすことが本当に辛かったです。

しかし成長とともに、たとえうまくコミュニケーションを取ることができなくても、

兄の気持ちを理解したい！という一心で兄と正面から向き合い、これまで一緒に歩んできました。

それはもちろん簡単なことではありませんでした。兄の気持ちを理解することができず、悔しい思いをしたり、大げんかをしたりと何度も壁にぶつかりました。

しかし、その都度お互いに流した涙が私たち兄弟の愛と絆を深めてくれました。

言葉で会話ができなくても、「表情や態度から意思を読み取ろう。」と努力するようになってからは、兄と接すれば接するほど、一緒に支え合って、これからも明るく生きていきたい、と思うようになりました。

兄の笑顔！

「彼の笑顔には本当に癒されるよ！」と、よく小さいころから支援学校の先生や知人から褒められていました。妹の私からみても、兄の笑顔はなんともいえないくらい愛おしく素敵で、見ている私が幸せな気持ちになります。言葉を交わすことができなくても、『笑顔一つで！人を癒すことが出来る！』彼の笑顔が変わるものはありません！

私も兄も沢山の人の支えがあったからこそ、ここまで成長することができました。

たとえ生きている環境や境遇が自分とかけ離れたものであっても、人は沢山の支えがあってこそ成長できるのであって、生きる事ができるのです。

人それぞれに特性があって、反対に苦手なことだってあります。

完璧な人など存在しません。

いろんな人が居て、一人一人が『誰か』のことを想って、生活するからこそ！

私たちはよりよい社会を築くことができるかもしれないのです！

兄が居たからこそ、今の私があります。

兄のことを想う、自分の素直な気持ちを、いつか、社会に反映することができたらいいなと思います。

兄の存在を通して自分や友達、社会のことは見直したり、他の人とは違う視点を持ったりすることができました。

兄の一番の宝物の『笑顔』。

私も、家族や友達から「自分にはないもの」を沢山取り入れて、「兄のような人」を心から癒してあげられる、笑顔の持ち主になりたいです。

ご清聴ありがとうございました。